



地区目標 ロータリーに夢をもって行動しましょう!!

クラブテーマ 想像から行動へ～優しさ溢れる出会い (DEI) のクラブ～

- ◆点鐘：遠藤 靖彦 副会長 ◆ロータリーソング：それこそロータリー
- ◆司会：遠藤 直樹 S.A.A. ◆会場：山形グランドホテル

第2953回例会

令和4年8月22日(月)

## 会長あいさつ

市村 清勝 会長  
(代読：遠藤靖彦副会長)

私は子どもの頃から生き物が大好きで、昆虫からサナギを捕まえては飼育するというようなことをやっておりました。小鳥は山形まで左沢線で小鳥屋さんまで買いに行き、ジュウシマツ、セキセイインコ、1つがい買ってきては繁殖させて、50匹ぐらいは飼っていたような気がします。シマリスも飼っていました。小学生の時のこづかいは全部エサ代で消えていた、そんな子どもの頃でした。それで今日は野鳥の話の少ししたいと思います。

皆さんは野鳥観察というと、森の中とか海辺とかに出かけて、と考えると思うのですが、工夫次第で庭にもいろんな鳥が集まってくるので、手軽にバードウォッチングが楽しめます。写真が趣味なので私が撮った写真で紹介いたします。これはヒヨドリです。名前はかわいいのですが、良く見ると頭がつんつんで結構攻撃的です。冬、リンゴを置いておくとついでにきます。ほかの鳥が来ると攻撃をします。

これはモズです。くちばしが5～6ミリという、割と尖っていて、「はやにえ」といって、この鳥は虫を串刺しにして後で食べるという残酷なことをする鳥です。春先、ミルワームというイモムシのような缶詰を蒔いておくと食べに来ます。

コムドリ、シジュウカラ、ジョウビタキ、ツグミ、などもよく庭にやってきます。

そしてメジロはとてもかわいい鳥です。ミカンが大好きで、冬、窓辺にミカンを置いておくとやってきます。



いろいろな鳥を見たいので、私は毎年飛島に行きます。どうしてかというと、多くの渡り鳥が飛島に休みに来るんです。飛島に行くとカメラマン、バードウォッチャーがカメラや望遠鏡を持っていっぱい来ます。

どんな鳥が来るかというと、キビタキ。とてもきれいな黄色が目立つ鳥です。そしてオオルリ。ちょっとめずらしいところでは、ヤツガシラといって、冠羽が8枚、頭の上に立つんですね。

そして飛島のハヤブサ。ウミネコを襲って捕食しているシーンです。結構めずらしいかと思えます。

そんな動物好きの私ですが、安部幹事からの紹介で今日の講師でございます東先生とお会いしたのが今年の2月初

め頃だったと覚えております。印象は衝撃的でありまして、黙って聞いていると何時間でも動物の話がされています。野生動物獣医師の肩書どおり、動物愛にあふれているんだなと感じました。

そんな東先生がたった1人で国指定特別天然記念物であり、山形県の県獣、カモシカの保護活動をしておられると聞きまして、先生が活動しておられる環境を見てまいりましたが、大変失礼なのですけれども、決していい環境とは言えなかったのでありました。これは何かお手伝いをする必要があると感じ、今回財団にお願いをして、寄付をすることになりました。先生のこれからの努力に期待して、会長挨拶とさせていただきますと思います。

## 幹事報告

安部 弘行 幹事

- 今週土曜日27日に予定しておりました蔵王トドマツ視察変更例会でございますが、理事の皆さまから今回はやめておいたほうがいいのかという意見が出まして、今週の変更例会は延期とさせていただきます。先ほど結城委員長、プログラム高橋委員長とも相談しまして、候補として10月8日土曜日、同じような計画でまいりたいと思います。9月の第1例会後の理事会で承認の上でまたあらためてご案内させていただきますのでよろしくお願いいたします。
- 今月のロータリーレートは133円です。

## ニコニコBOX

〈8月22日〉

市村清勝会長／東先生を歓迎して

東先生の動物愛あふれる卓話を楽しみにしております。

結城和生さん／東英生先生をお迎えして

野生動物保護の観点からニホンカモシカの現状と保護の必要性として卓話をいただきます。

中村喜陽さん／花笠まつりに参加して

今回初めて企業グループ有志とともに踊りました。小学生時代に練習した覚えはありますが、何十年ぶりでは覚えているわけもなく、会社で5回ほど練習して臨みました。七日町の通りに多くの観客もおり、晴れやかな気持ちで無事踊れましたのでニコニコです。



## カモシカの現状と保護の必要性

東 英生 さん

[野生獣医師]

動物保護の観点から四十数年、その活動に携わってきました。山形での野生動物の調査からニホンカモシカの現状、保護のための活動を行っています。

カモシカを保護されていた方がいたり、また保護している施設がちょっと手に負えないということでお預かりしたカモシカ2頭がおります。両方ともメスで、大きいほうがミナ、もう一匹がスモモという1歳違いのカモシカになります。こうやって飼っていると、私を親と思っているのか鎖も何もなくてもずっと一緒に山を歩いたりします。

これは千葉で私がサルを始めた頃の写真です。ここに100キロぐらいの白髪のおじいちゃんがございますけれども、人間も変わるし、サルも変わるし、環境も変わるということで学生さんによく見せて、こんなに変わるんだよと。だから昨日のカモシカは今日のカモシカとはまた変わるし、10年後のカモシカはまた変わるんだよということで、固定されてない、本の活字になってない流動的な形で適応している野生動物ということで表現するのに使わせてもらいます。

これはカモシカの山形での1つの事例になります。上山で建設省事業で河川敷の堰堤工事をした時にそこにカモシカが入って出られなくなってるんです。これ、お母さんは出ていったんですね。お母さんは脚力ありますから出て行ったんですけれども子どもは残っちゃって、結局そこに残されていたので、捕獲して出すのも手なんですけれども、1つ階段を作って、こっちの端っこにコンテナを積んで、そこにカモシカが昇れるようにして1週間くらい待ちました。私はどちらかという動物を触らないでやるのが好きなのでこの方法をとりました。このまま個体は山に逃げていきました。

今日の朝もやってきたんですけれども、今イノシシの被害出るということで、イノシシの罠をかけるんですね。罠をかけて、1晩で1個かけると1ナイトと言うんですけれども、日本中で多分今10万から50万ナイト、イノシシ用の罠がかかっていると思います。それに今シカとかカモシカとかクマがかかって、それをどうするかということにもなってるんですけれども、罠を外すという前提なんですけれども、外して、耳に印をつけて、次に捕獲されたかどうかというのを確認しています。

それで名前も付けて、推定年齢がカモシカはわかりやすいので、何歳まで生きて、子どもを産んで、というのを山形市内でも、または山形県内でもできているのが幸いというか、そういう連絡をいただいたところには行けて、関わっています。今日も放したのが2歳半のメスですけれども子どもをまだ産んでない。来年の6月に産む

予定で、それが産んでから何をするのか、何歳まで生きるのか、その子どもがどう生きるか、そしてまた被害を出すのか出さないのか、増えるのか減るのか、など。非常に地道ですけども、長い間やって、それを40年以上やっています。それでもわからないことはいっぱいあります。いろんな猟友会の方に「ここ、どうだった？」と聞きながら今やっている状態です。

こちらのカモシカはお父さんもお母さんもその子どももマーキングしたので、ずっと追っかけてるやつです。このお母さんは次の次の年、子どもを産んで目の前に現れました。そういうことで長く続けると親子関係とか、カモシカがいくつまで生きて、子どもがどこに行ったかというのかがわかります。

これはカモシカのパラボックスという感染症で種特定であります。カモシカの場合は非常に特異的にはっきり症状が外貌的に出ます。外見上ですね。日本語で言うと伝染性膿疱性ヒエンになります。パラボックスで亡くなると隣にいたやつにうつります。その地域のカモシカは病気になったりは急に被害が増えたりします。

日本ではカモシカを育てたり、野生に帰すとといった時に、運んだり輸送したりというのはないんですね。そしてこれ、3つ輸送のものをセットしてあります。カモシカは広い箱を作ると暴れるので、ケガするんですね。それでカモシカの腰の幅ぐらい、ギリギリぐらいのやつで運ぶというのが僕らの常識です。

何年前かに山大小白川キャンパスにメスのシカが入ったというのがあって、連絡がありましたので、捕獲して西藏王の牧場に放しました。このシカも今は山形で分布拡大してしまっていて、シカというのは捕ることで来なくなるんじゃないくて、優しくすることで来なくなる。僕らの経験上は優しくしてあげるほうがずっと来なくなるということになります。

こちらは新潟で捕獲したクマです。新潟もクマが多くて、これは倉庫に入ってたクマで、ほんとは捕りたくなかったんですけれども捕るハメになりました。これも100キロを超えるクマで、私には警察と新潟県のほうから依頼があったんですけれども、それで捕獲できたのですが、なぜか、捕獲できた瞬間に車が来まして、檻を持ってきて、どっかに持っていかれました。どっかで処分してみたいです。僕は放すという前提で協力するということ、だから大丈夫だと言ってたんですけれども、今はどうなっているかわかりませんが、今新潟ではこういう班が3班できてます。長野も3班できています。そういうことで、クマとどう付き合うかも含めて、カモシカとどう付き合うかも、今からいろんなことが起きますのでいろんな形で覚悟しながらやっていかないと、共生はできないなと思っています。

これが山寺で母子カモシカを預かるような施設を作る時の看板で、案を出して、今これを看板屋さんをお願いしているところです。いろんなことをやるんじゃないくて、もう年ですから、カモシカに特化してカモシカを野生に帰すことの何かのお手伝いができればいいなと思っています。どうも長い時間ありがとうございました。

本日出席 (8 / 22)	会員総数	出席会員数
	100名	56名 (Zoom参加者31名含む)